

裏の釘の頭なるや分からすとの事て、先は一笑に附す。

(二)白鐵鑛。此れは黃鐵鑛と同成分のものなり、昔し人智の開けざる明治三十年頃迄は盛に各地より白鐵鑛を産出せしかサテ學術の開けたる現今其産地少くして其産出も極めて稀となれり。産出少くしては無用のものなり。

(三)チタン鐵鑛、皆磁鐵鑛中に混して産す、分ける事も出来ず有害無益のものなり、其内チタン鐵鑛のみ多く出る所ても知れたら又其時の事。

(四)フランクリン鐵鑛。朝鮮の各地に産すと云ふ事にする方か、面白いか面白いか吾々か面白半分考へて居る程度のものにて其現物確ならず。

(五)菱鐵鑛。各所に少しつゝ産すれとも、鑛物標本にするにも足らぬ程の産出なれば駄目。

(六)硅灰鐵鑛。此れは漆黒色にして、鐵と石灰との硅酸物なり、長門藏目喜、神岡、草倉等の各地に産す、嘗つて草倉にては此れを鐵鑛と思ひて鑛區を出願し許可を得て、サテ呆然たりし事あり、又此れを銅製煉の熔劑に用ひて呆然たりし事もあり、此れを無用の實驗的研究と云ふ。

(七)藍鐵鑛。此れは昔青鐵鑛と云ふ、結晶をして産するものと土狀のものとなり、結晶せるものは足尾に産す、初めて足尾にて産出せし時、駄技師は之を藍色の石膏なりとして珍重せり、分析の結果藍鐵鑛と云ふ珍鑛物なりとて愈々珍重せり、勿論無用鐵鑛なれとも學者連中か標本に呉れ

とて諸方よりの註文來る、足尾の技師は現場員に其採集を命す、現場員其煩に堪えず此の有害鑛物の奴めと怒つて人知れず皆破壊し去つて、其標本も今は得るに難くぞなりにける、無用鑛物も時に有害鑛物となる、土狀のものは其美はしき藍色なり、歐洲戰亂の結果染料不足の時、此の藍鐵鑛を染料にせんとして大さわざする山師の好材料に過ぎず。

(八)毒鐵鑛。木浦鑛山に一種の無用鑛物を産す、其量輕少にして其形微少なり、明治二十八年には錫石と鑑定せられ、二十九年には斧石と變化し、三十年には毒鐵鑛となつて、三十一年には葱臭石となる、其實は毒鐵鑛でも葱臭石でもなく全く異種の含水砒酸鐵の鑛物なり。如何に無用鑛物なればよしとするも毎年々々の改名は少々恐入る、誠に學者を毒したる鐵鑛なり。

(九)ラドラム鐵鑛。足尾産にて美しき淡綠色の小結晶なり、珍品にて稀有なり、嘗つて輝沸石なりとして考へられしか、調査の結果磷酸鐵より成るラドラム鐵鑛なること判明せり、尤も輝沸石でもラドラム鐵鑛でも無用鑛物なれば益も損もなし、但し試に足尾に命じて其標本を採集せしめ給え、ラドラム鐵鑛は悉皆大鮫か採集し盡したる跡なれば、如何にしても得る事能はず、足尾は大さわざして有害鑛物の一に數へらるゝに至るへし、先づ鐵鑛と云ふ名を冠して居なから役に立たぬものは斯の通りなり(鑛業會誌三七四號)

●名古屋電燈會社の硅素銑製造開始 名古屋電

燈會社常務取締役下出民義氏は、電燈の副業として電氣應用化學工業を開始せんとて熱心に唱道し、一昨年末總會の容るゝ所となり定款の變更をなしたるに付、爾來電氣技師寒川工學士を歐米に派遣して各方面の調査をなさしめたる結果、特種鋼アルミニウム杯の製造を開始せんとしたるも、其後輕銀は日本輕銀會社の設立を見るに至りたれば、同會社には唯電力を供給するに留め、電燈會社は主として炭素鋼特種合金鐵の製造をなすに決し、昨年末其機械の購入をなすと共に、八幡製鐵所技師たる内山繁氏を聘し、寒川技師と共に本年一月八日より試験に着手し、先づ硅素鐵に於て満足なる結果を得たれば、本月六日より更にタングステン^①の試験に着手する筈、近時タングステン合金は一噸一萬五千圓餘に暴騰し、原料も岐阜方面に豊富なれば極めて有望なりと云ふ、同社購入の熔爐は一噸半を製造し得らるゝものにして、晝夜兼行せは一日に五六噸の製造をなし得るより、戰時中の供給は勿論戰後に於ては從來の輸入を防遏し得る見込なりと。

●米國の製銑高

米國は從來世界に於ける製鐵國の羈者にして、世界の總産額壹億二千萬噸中約三千萬噸を産出したるしか、先年製鐵ツラストの弊漸次顯著となりて産額減少し、業務の不振其極に達し利益は其生産費を償ふに足らざりしか、歐洲大戰勃發するや鐵類の需用一時に起り、從來の高爐丈けにては到底交戰各國の需用に應ずること能

はざるに至りたるを以て、鎔鑛爐の増設又は新設さるゝもの多く、昨年中に於ける其數は實に九十三基に達し、總産額三千萬噸に上りたるか本年一月以降の狀況は、昨年に比し猶一層の好況にして今日の割合を以て進まんか、本年中に於ける總産額は約四千萬噸に上る可き形勢なり。

●米國製銑高と本邦との比較（一ケ年と一晝夜）

去る五月九日歸朝したる川村三菱製鐵所技師は米國製鐵事業の現況に就て語りて曰く、米國各所の製鐵工場は目下世界各國からの大注文で、晝夜兼行の大多忙であるか、其仕事の掛取る事は驚く計りて、例へば我國ならば製造に正に一ケ年は掛る鐵を、僅か一晝夜の中に拵へて了ふなと只々感嘆の外はない、大冶製鐵所から注文した一日鐵か四百噸宛出來る筈の鎔鑛爐二基は、目下米國で作へて居るか是か出來たら我國でも、此一大冶製鐵所からても一日八百噸宛の銑鐵か出來る事になる云々。

●神戸製鋼染料製出

神戸鈴木商店の經營に係る神戸製鋼所にては楠瀬工學士主任となりてナフタリンより染料の製出を研究中なりし所、精製品を得るに至りしより今回赤色黄色褐色の三種を發賣する事となり其數量は多からざるも順次擴張する計畫なりと。

●電氣製鐵業勃興

從來我國に於ては、電氣動力に依る製鐵事業に成功せる者少かりしも、歐洲戰亂以來鐵價暴騰して、鋼鐵の如き中には平時の七八倍、即ち一噸一萬